

埼玉大学経済学部同窓会

第 2 号

1999年5月28日発行

発行 埼玉大学経済学部同窓会

経和会会長 伊藤正昭

浦和市下大久保 255番地

TEL 048-858-3281

# 経和会会報

## 開学50周年に想う

経和会会長 伊藤正昭

新制大学はどの今年開学50周年を迎えるわけであるが、旧制浦和高等学校と埼玉高等師範学校の木造校舎で2学部だけで発足した我が埼玉大学が、50年を経て今や下大久保のキャンパスに鉄筋コンクリートのビルが林立し、5学部を擁する総合大学にまで発展した姿を見るとまことに感慨無量である。

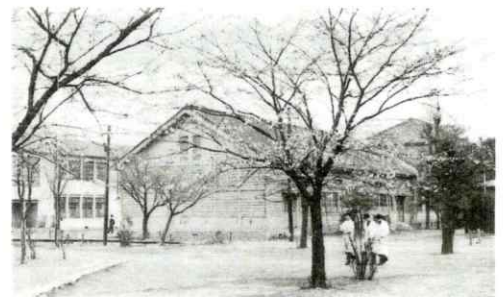
昭和26年に入学した我々には今日の埼玉大学の姿を想像もできなかったことだが、それも無理はない。

なにしろ、当時はまだ第二次世界大戦が終わってから丸6年も経っていない時代だから暖房設備と言えばダルマストーブがあったからまだ良

いようなものの、冷房など思いもよらないのは当然で、食糧事情も悪く、ようやく外食券がなくても町の食堂で麺類が食べられるようになったばかりだった。

しかし、文理学部は旧制高校の色彩が強く、語学の授業は充実していて英語と第二外国語の授業が週に6時間ずつあり、しかも小人数のクラスだったから、毎時間、必ず指名されるので語学の予習だけでも余裕はなく、遊んでいる暇はなかった。

3年になって専門課程に入ってもどの授業も小人数で、中には非常勤講師で来られていた著名な先生とマン・ツ・マンで講義を受けるとい



往時の文理学部校舎

うことさえあった。

このような小人数クラスでの授業は大規模な大学とは異なった埼玉大学ならではの、メリットであった。原書講読にしても、原書を手に入れるのが難しい時代だったから、先生から原書を拝借して、コピーなどという便利なものもないので手書きで写し、教科書を作ったりもした。

そうして卒業を迎えた昭和30年は朝鮮戦争後の不況の、今よりもっと深刻な就職難時代で、コネがなければ就職試験さえ受けさせてくれない企業が多く、新聞社や放送局など公募しているところさえ、旧帝国大学と新制大学は差別され同一の試験を受けさせてくれないところもあり、悔しい思いをしたことは今でも忘れない。

しかし、それでも我々卒業生は先生方のご援助のもとにそれぞれの道を切り拓き、各界に進出して、埼玉大学の名を高めてきたが、それとともに埼玉大学は東京に近いという地理的理由からか、常に都内の大学と肩を並べ競争することを意識してきたように思う。

だが地方国立大学の独立行政法人化も取り沙汰される現在、我が埼玉大学が浦和という地にあって、いかにして特色を出し、地域のために役立つていくかを考えなければならぬと思う。



上の写真あたりは現在「県立近代美術館」に

50周年を迎えることはまことにめでたいことであり、一つの区切りでもあるが、これからの50年を見据えて、我が埼玉大学の進むべき道を策定する機会でもあることを認識して、今年行われる開学50周年記念事業に経和会として独自の提案をもって参画したいと考える次第である。



文理学部のグランド跡、いまは市民の憩いの場に



旧北浦和キャンパス 文理学部正門付近  
S30年卒 北條宗男氏 提供



現在の久保キャンパス

# イギリス滞在記

経済学部長 貝山道博



昨年11月16日に経済学部長に就任した貝山道博です。伊藤正昭会長はじめ経和会の皆様には様々な面で本学部へのご支援、ご協力を賜り、誠に有難うございます。奥山忠信前学部長同様、一生懸命務めますので、今後とも宜しくお願いします。

中野恵永副会長から「イギリス滞在記」ということで「会報」への寄稿依頼がございましたので、私が1997年3月末から10ヶ月文部省在外研究員として滞在了イギリスの経済について書かせていただきます。1997年という年は、山一証券や拓殖銀行の倒産に象徴されるように、日本の金融危機が本格化していった年です。私がどんな思いでこの事態を遠く離れた異国の地から眺めていたのか、このことを知っていただくために、友人(経和会会員)にあてた手紙の一部を紹介し、私のイギリス滞在記の代わりとさせていただきます。日付は同年12月9日です。

「お手紙有り難うございます。私ますっかり読売新聞(欧州版)のファンになり、毎日日本の悲しい話を読ませていただいております。あまりのテンポの速さに、日本の反対側にいる私はただ面食らうばかりです。さすが山一証券の倒産時にはBBCでもトップで取り扱いました。とく噂があった会社ではあります

が、いざそうなってみると、本当に日本経済は大丈夫かと不安に駆られます。日本は現在イギリスに置いて、行財政改革、金融ビッグバン、規制緩和、民営化を行ないつつありますが、イギリスは一旦そう決めると徹底的に行いました。日本にこうした潔さがあるのでしょうか。郵便事業民営化問題に見られるように、真の危機意識がないだけに、形だけのものに終わってしまうだろうと思えます。その意味では、族議員といわれる人々ほど自己保身のため護送団にしがみついているのではないのでしょうか。ここがイギリスとの決定的な差でしょう。

今イギリスが誇るのには美しく豊かな自然です。幸いにも製造業が豊かではありません。この自然環境が破壊される恐れはありません。ナショナル・トラスト運動も今や開店休業の状態でしよう。皮肉なものです。イギリス経済の好調はポンド高を生み、また、良いお客であった日本や韓国などが左前ですから、今後の外国企業誘致もままなりません。EUの通貨単一同盟にも参加しませんから、外国企業の新規投資は欧州大陸の資金の安いほうに流れていきます。トヨタ自動車のフランス進出はまさにこのことを象徴しています。これからイギリスは観光大国を目指すのでしょうか。

お手本としているイギリスもこんな状態です。あまり当てにはならないような気がします。やはり基本はモノノ財を作ること、そのための技術革新に努めることではないでしょうか。行財政改革も、規制緩和などもそのための環境・条件整備であり、そのことが基軸に据えられなければなりません。どうもそうした認識が欠落しているような気がいたします。

拓殖銀行の友達はどうしているのでしょうか。再就職となると我々団塊の世代は大変苦労するのではないのでしょうか。会社のため一生懸命働いてきて、その上路頭に迷うのですから、たまったものではありません。今後縮小再生産を迫られる大学も例外ではありません。果たしてこの大学が生き残れるやら。異国の地について「誰か故郷を思わざる」の心境です。今年の納めの飲み会に出席できないのは大変残念ですが、くれぐれも湿っぽい飲み会にならないことを祈っております。

# キャンパスだより

## 新経済学部長に貝山道博教授

平成10年11月16日付で、前任の奥山忠信教授に代って貝山道博教授が、埼玉大学の経済学部長に選任された。貝山教授は前任の奥山教授と同じ東北大学の出身で、昭和49年東北大学大学院修了後、東京経済大学の助手講師を経て、昭和53年から埼玉大学の講師、同56年に助教授、平成2年に教授と埼玉大学でのキャリアは21年に及ぶ。

この間、東京理科大学、山形大、東京外語大、名古屋大学大学院などの講師を兼任され、教授としての豊かな経験を持つ経済学博士である。

専門は公共経済学、都市・地域経済学で、数理経済学、厚生経済学、財政学、国際経済学等の講義も担当し、幅広い学問的業績を持つおられる。平成9年には文部省の在外研究員としてイギリスに派遣され、10ヶ月間滞在了ロンドン大学とアダム・スミスゆかりのグラスゴー大学で研究を積んでこられた。

経和会については前学部長の奥山教授や箕輪教授と共に従来から熱心にご協力いただいたが、今後も学部長という立場で全面的にバックアップして下さるものと期待している。

当日は、安井先生ゆかりの方々をお迎えして記念シンポジウムを開くほか、蔵書・資料・書簡などの展示を行います。展示は少しは多くの方に越えたいと考えて、引き続き二八日(火)までの三日間連続して行うことにしています。

## 埼玉大学に「安井琢磨文庫」 9月25日に記念行事開催

昨年、資料室と合併して発足した社会動態資料センターに貴重な蔵書と資料群が加わります。

「安井文庫」と名付けられた蔵書資料は、日本の近代経済学を確立し、一九九五(平成七年)二月、八六歳で永眠された故安井琢磨先生の蔵書、研究ノート、書簡類からなり、和洋図書約二〇〇冊、研究ノート二〇冊、書簡類約一〇〇通が収められています。

書簡の中には一九三六年に書かれた世界的経済学者シュンペーターのものも含まれています。シュンペーターは若き日の安井先生に對してレオン・ワルレスの一般均衡理論研究を勧め、その研究が後の安井先生の大きな業績として結実することになりました。

こうした学説史上重要な書簡、先生の精緻な研究ノート、そして研究の足跡を残した膨大な蔵書群は、埼玉

したことです。同時に、当学部と安井先生の浅からぬ御縁にも支えられています。

安井先生は、一九四四(昭和一九)年以来、二四年間に渡り東北大学で研究と教育を行ってこられました。が、急逝された元学部部長田中一盛先生をはじめ直接・間接に先生の学問的影響を受けた当学部教官の存在もあってこれだけまとまった貴重な蔵書・資料が収められることになりました。

この誇るべき「文庫」を皆様にご覧いただくため、来る九月二十五日(本学創立五〇周年記念事業の一環として)「安井文庫」開設記念展を開催します。

詳細は、追って経和会事務局よりお知らせがあるかと存じます。ぜひ、御出席ください。また、記念展開催の後には通常の閲覧業務を行い、皆様の御利用に供していきます。

最後になりましたが、皆様の御理解、御協力のおかげで社会動態資料センターは順調に整備が続いております。一部の資料はホームページでも所在の有無を確認できるようにになりました。一度御覧になってください。

http://www.eco.saitama-u.ac.jp/ (この項、社会動態資料センター藤林泰助手)

## 「開学50周年記念事業後援会」設置 経和会 伊藤会長が代表に

埼玉大学が旧制浦和高校、埼玉師範学校、埼玉青年師範学校を併合して発足したのは戦後間もない昭和24年のことである。従って今年が開学50周年ということになる。

組織としての発足は5月であるが、実質的な開学は11月であるため開学

### 平成10年度事業報告

- ・ 4月21日 理事会  
平成9年度事業・会計報告  
平成10年度事業計画・予算  
規約改正他
- ・ 5月1日 経和会会報創刊号発刊
- ・ 6月2日 兵藤学長歓迎会  
常務理事会メンバー
- ・ 6月9日 大学就職説明会・交流会参加
- ・ 6月10日 常務理事会  
定期総会準備、OB会費徴収
- ・ 6月23日 大学主催学長就任祝賀パーティ  
一、副会長他出席
- ・ 7月8日 定期総会・懇親会
- ・ 8月19日 開学50周年記念ゴルフコンペ準備委員会
- ・ 9月3日 理事会  
経済学部へのクーラー寄贈を決定
- ・ 10月21日 コミュニティーカレッジ支援  
(公開講座、公開セミナー)
- ・ 2月26日 開学50周年記念事業後援会設置  
伊藤会長が後援会長に
- ・ 3月17日 常務理事会  
開学50周年記念事業、  
会報、OB会費徴収
- ・ 3月25日 卒業謝恩会



り資金は寄付に頼る以外にない。そこで資金集めを主目的とした「開学50周年記念事業後援会」が設置されることとなり、大学側からの強い要請でわが経和会の伊藤会長が後援会長に就任した。

記念事業としては埼玉大学50年史の発刊をはじめ、各種オープンセミナーの開催、校章・校旗の正式制定、埼玉の川・荒川の水源を守るための「1000年の森作り植林事業」、我国近代経済学の父・安井珠麿の遺品・業績を伝えるための「安井文庫」の設置など、多彩なイベントが計画されている。

このための募金目標は3千万円であり、一口5千円の寄付を募ることになっている。3千万円といえは6千口ということであり決して安易な目標ではなく後援会への期待は大きい。大学の危機が伝えられる今日、われらが母校、埼玉大学の存在をアピールする絶好のチャンスとして開学50周年記念事業は何としても成功させなくてはならない。

いずれ後援会事務局より募金の案内があるが、一口でも多くの寄付が集まるようみんなで協力しようではないか。

## 経和会 この1年

一回の定期総会に毎年一回の定期総会を開催することが規定されているが昨年は7月8日に新宿のセンチュリーハイアットホテルで開催した。

出席者はやや少ない140名余、まず別室で規約の一部改正等を議題に総会を行い、続いて4月1日に就任したばかりの兵藤学長に記念講演をお願いした。埼玉大学は今年で開学50周年を迎えるが、兵藤学長は第9代目、開学以来初めての経済



兵藤新学長が記念講演

もあって和気藹々の雰囲気である。学長の大学教育問題を中心とした講演のあと会場をクリスタルルームに移し、懇親会はおおむね同期会中心のグループになることが多いが、寮生活やクラブ活動での先輩後輩が旧交を温め合う場面もあって和気藹々の雰囲気である。参加者の平均年齢はやや高く仕事上の理由が若年層が少なく、同窓会は単に懐かしさのみの場ではなく、新たな人脈を得たり、見聞を広めたりする異業種交流の場として非常に大きな意味をもつのであるから、もっと若きビジネスマンが多数参加すればよいと思うのだが。

また、出席者のリストを見ると、年次別に参加者数に大きな差がある。誰か奇特な幹事役がいて、日頃から集まったり連絡をとり合ったりしている期では出席が多く、逆に出席者がゼロという年次も少なくない。

誘い合って一人でも多くの人が出席し一回の総会を盛り上げて欲しいものである。

## 平成10年度定期総会

### 「市民公開講座」を寄付

—マスコミも取り上げ大きな反響—

**埼大初の無料公開講座**  
経済学部で10月から3コース

同窓会が受講料負担  
「愛される大学」に役担う

経済学部では10月10日(土)から17日(土)まで、3コースの無料公開講座を開催する。これは、同窓会が受講料を負担する。この講座は、経済学部で初めてのもので、同窓会が受講料を負担する。この講座は、経済学部で初めてのもので、同窓会が受講料を負担する。

平成10年9月1日付 読売・埼玉版

### 経済学部新講義棟に冷房設備を寄贈

### 冷房設備を寄贈

経済学部は平成8年度末に5階建の新講義棟を完成させた。ところが講義室には冷房設備がなく、建物が南北に長い西向のため、夏場は西日で室内がサウナ状態になってしまふ授業に耐えられないという。文部省に申請したが認められず、他学の例を調査の結果、同窓会が寄贈しているケースが多いことから経和会に対して冷房設備寄贈の要請があった。

この件に関しては初の高額寄付であるため急遽平成10年度の総会に諮

したが、理事会一任ということになり、討議の結果寄贈を決定した。平成10年秋には工事が完了し、何とか「残暑」に間に合わせることでできて非常に感謝された。

金額が大きいので、学内の「経済学会」に一時立替をお願いし、4分割で返済することになっており、財政的には何ら問題ない。

これで夏場の授業の質が向上し、埼玉大学経済学部学生の株が上った。これら言うことなしである。

大学が社会に開かれた親しみのある場となることを望まれているが、埼玉大学は経済学部「夜間主コース」を設けた。大学院に社会人を迎え入れるなど積極的な取組をして実績をあげている。

しかし何れも人数に限りがあるのが難点で、もっと数多くの市民と交流するには「公開講座」を開催するのが最も効果的である。

このニュースを読売新聞の埼玉版が大きく報じたことから受講希望者が殺到し、申し込みが上回る状況であった。好評につき今年度以降も開催するが同窓生の皆さんも受講されるには如何。

### 就職セミナー「今年の就職戦線を考える」に参加

経済学部では経済学会の主催で、毎年就職セミナーを実施しているが、昨年経和会が共催という形で加わり、6月9日に「今年の就職戦線を考える」と題するセミナーが開催された。経和会からは会長・副会長をはじめ各年代、各業界代表といった形で、13名の講師が参加し、2人が講演、11名が一口アドバイスを行った。「就職冬の時代」を反映して1・2年生を含む70・80名の学生が新講義棟の303教室で熱心に先輩達の話に耳を傾けていた。

### 埼玉大学経済学会1998年第1回講演会「今年の就職戦線を考える」



5時過ぎからは会場を大会会館の3階に移し、懇親パーティとなったがセミナー会場の数倍の学生が集まり大盛況であった。

学生達のマナーの悪さに堪りかねて伊藤会長が一喝するひと幕もあったが、先輩をつかまえては熱心に質問する学生も多く、あちこちに先輩を囲む人の輪ができていた。料理はアツという間に無くなったが、先輩達との対話は絶えることなく、教授達からも大いに感謝される一日だった。

経和会からのお知らせ

平成11年度定期総会案内

- 1 日時 平成11年7月14日(水)  
18:00~19:00 総会  
19:00~21:00 パーティー
- 2 場所 センチュリーハイアットホテル  
B1「クリスタルルーム」  
(JR新宿駅西口、歩8分、都  
庁斜め前)  
TEL 03-3349-0111  
※地上、小田急ハルク前より送  
迎用シャトルバスあり
- 3 会費 10,000円
- 4 出欠 6月15日までに同封ハガキにて  
必ずご回答下さい

開学50周年記念ゴルフコンペに参加しよう

- とき 平成11年11月8日(月)
  - ところ 東松山カントリークラブ
  - 参加費 5000円(プレイ費は各自精算)
- ※コース貸切りとするため120名の参加が必要  
参加申込は TEL048-885-6697 内藤副会長まで

終身会費の納入について

会報に同封した文書の通り、経和会では会員の皆さまからの会費の納入について理事会で検討した結果、終身会費として2万円を徴収することになった。終身会費とすることによって徴収の手間を省く狙いがあるが、一括納入が困難な会員のために2回または4回の分割納入も選択できることとした。

また前に実施した基金募集の際に協力した会員はその金額を差し引いて納入してもよいことにしている。同窓会室も専任の事務局もないままボランティアのみ頼った運営をしていると、折角軌道にのりかけた経和会の活動が挫折しかねない。何をやるにしても財政の確立こそが大切であるが、ある程度の基盤が出来た今こそが大事な局面である。不況下の厳しい時だが是非協力しよう。

同期会紹介

2

文三同期会の現状

昭和30年卒業の文理学部文科三期1組、2組卒業生の合計80名のうち、連絡のつく約40名に呼び掛けて同期会を開催するようになってすでに約10年になりました。

今では有志約15、6名が毎年11月末の週末に集まるほか、7月にはピヤパーティーを開催しています。

更に文三同期会では、ただ集まるだけでなく、学生時代に第6号まで発行した「プレリユード」という雑誌を復刊しようという話が持ち上がり、復刊第1号(通算第7号)を平成7年に、復刊第2号を平成9年に発行したが、近く第3号を発行しようとして準備しているところです。

学生時代には読みづらいガリ版刷りだった「プレリユード」も復刊し

インターネットホームページ

— 母校の情報をどうぞ —

母校の現状を知るには、主として受験生向けに毎年刊行される「埼玉大学案内」ならびに「埼玉大学経済学部案内」という冊子がある。またパソコンをお持ちの方は下記のホームページへアクセスするのが便利。

埼玉大学 <http://www.saitama-u.ac.jp/>  
経済学部 <http://www.eco.saitama-u.ac.jp/>

編集後記

◎ 昨年会報第1号発行の後、何人かの会員諸氏から「苦勞様」という慰勞や激励や、ちよびりご批判も頂きました。何にしても、反応があるのは嬉しいことで、会報を続けていく糧とさせていただきます。

◎ 30年卒の北條宗男氏からは早速貴重な北浦和キャンパスの写真を送っていただきました。有難く使わせていただきます。有難く使わせていただきますと共に、大学の50年史編集委員の方へも提供していただきました。ご厚意に改めて感謝申し上げます。

◎ 大学側からは貝山経済学部長と、社会動態資料センターの藤林助手にお忙しい中執筆をお願いしました。蒼玄寮の想い出を綴って下さった34年卒の原さんにも感謝いたします。

◎ 年に一度のこととはいえ、素人が会報編集に大苦戦。原稿や資料の提供などご協力頂ければ幸いです。

わが青春の蒼玄寮

蒼玄寮生活断片 34年卒 原 伸

【押入れ部屋】 各種とも一階二階に八室ずつ。15畳に5人が標準。縁のない畳は破れ、焼け焦げが多く、埃だらけでヨレヨレという代物だった。共用の卓などないから湯のみは灰皿と同様直接におく。披げた新聞紙などでこぼれやませたからよくつまずいてこぼした。或る時、あわてて拭こうとしたら先輩、いいよ、いいよとすくしみ込むから。大掃除

【ツヴァイ】 寮は一棟から六棟まで一棟は職員寮、二一五棟が学生寮、六棟は事務室など共に食堂があった。一日の食費は60円、朝食16円、昼・夜食が22円だった。(後に7円になり一日70円となった。大型切手大の紙片にAとあるのが朝食用、これを窓口に出して取る麦入りの丼飯、味噌汁の椀と漬物、

小皿の三点セットが朝食のすべて。夕食にはこれに一皿のおかずがついて日券と引換えた。焼サシマ、肉片入りのシチューめいた物などが出た。人気のメニューはゲイカツ。当時鯨が一番安い肉だったからカツといえど鯨だった。それでもカツの日は夕食を二度食べる者が続出、これをツヴァイといった。ほかにはカレーは「ドライ」の猛者は、こういう日は遅くなるし食いはぐれる者も出るから、賄いの人や担当者(生活部員)は苦勞した事だろう。

【部屋がえ】 年に二回部屋がえがあった。昭和30年は6月5日、12月4

の日、畳をあげて人の字型に合わせようとしたが、腰くだけて立たなかつた、なんて話もあった。各人に一畳分の押入れがあった。多くの人は押入れ下段に布団、上段に机を入れて勉強部屋にした。冬などは電気スタンドの熱で結構居心地の良いプライベートルームになった。昭和30年は6月5日、12月4

【寮祭】 30年7月9、10日の土日は寮祭だった。女子の悠玄寮と共催だった。前日8日には教育学部の中庭でフォークダンス会があり、9日には食堂のある蒼玄寮広間に特製ス

日の日曜がその日だった。前日に部屋代表による抽せんがあり、当日は朝から寮中の荷物が狭い廊下を一階二階とも行きかかって大混雑だった。上を下への大騒ぎとはこういう事かと思えた。寮祭は30年7月9、10日の土日は寮祭だった。女子の悠玄寮と共催だった。前日8日には教育学部の中庭でフォークダンス会があり、9日には食堂のある蒼玄寮広間に特製ス

【バイト】 求人があるアルバイト部が紹介した。川口オートレース場の雑用入学試験の監督などで日給は三百円位だった。いいバイトは倍率が高くなりつつのが大変だった。バイトにありつきたい人が委員になったりもしたようだ。家庭教師は月二千元が標準だった。【堀口さん】 寮の事務室には堀口さんという女性がいなかった。色白でぼつちやりにしたきれいな人だった。寮の経常費の納入、食券販売、書留(故郷よりの送金)受渡しなど作業を殆んど一手に受け持つ忙しい人だった。

【同期会】 昭和30年卒業の文理学部文科三期1組、2組卒業生の合計80名のうち、連絡のつく約40名に呼び掛けて同期会を開催するようになってすでに約10年になりました。今では有志約15、6名が毎年11月末の週末に集まるほか、7月にはピヤパーティーを開催しています。更に文三同期会では、ただ集まるだけでなく、学生時代に第6号まで発行した「プレリユード」という雑誌を復刊しようという話が持ち上がり、復刊第1号(通算第7号)を平成7年に、復刊第2号を平成9年に発行したが、近く第3号を発行しようとして準備しているところです。学生時代には読みづらいガリ版刷りだった「プレリユード」も復刊し

手際よく美し頭のいい人で、寮生三百人ほどの顔と名前は一発で覚えたといわれた。知らない寮生は、すぐ覚えられてひと目惚れされたと感じて「と寮の雑誌」と書かれた。寮の上級生T氏との仲が噂されたが間もなく同じ姓になって居なくなった。◎ 蒼玄寮の思い出は尽きない。記憶は日々薄れてゆけばかりだが古い日記が大分役に立った。四年生になった33年頃、学校と共に寮が移転するという話が出てきた。卒業して間もなく寮のド真中に広い道路が通り、古い寮は消えた。今の浦所道路である。寮 キャンパスについての資料を、その後大学の図書館で探したことがあった。見つからないままに、それきりにしてしまっただけで、惜しまれる。りべるで、部屋制表など資料をお持ちの方、記述の間違いに気づかれた方など、ご一報頂ければ幸いです。(与野市鈴谷八六一二二) 原 伸